

件 名

第35回埼玉県産業教育フェアについて

提出理由

第35回埼玉県産業教育フェアの実施状況について、別紙のとおり報告します。

概 要

- 1 目的
- 2 事業概要
 - (1) 開催期間等
 - (2) 各会場の参加高校一覧
 - (3) 生徒実行委員会
 - (4) 開催内容
- 3 成果と課題
 - (1) 参加者数
 - (2) ホームページアクセス数等
 - (3) 目的に対する成果と課題・今後の方向性

1 目的

専門高校等の生徒による学習成果の発表等を通じ、生徒の創造性や課題解決能力等の向上を図るとともに、産業教育の魅力と役割を広く県民に紹介する。

2 事業概要

(1) 開催期間等

北部地区

10月 4日(土) イオン熊谷店 (1階催事場・3階催事場)

東部地区

10月25日(土) イオンレイクタウンmori (木の広場)

西部地区

11月 1日(土) 丸広百貨店川越店 (6階まるひろば・7階エンジョイホール)

南部地区

11月15日(土) イオンモール浦和美園店 (1階セントラルコート等)

2 事業概要

(2) 各会場の参加高校一覧

北部地区

熊谷農業・秩父農工科学・児玉・熊谷工業・深谷商業・熊谷商業・皆野
鴻巣女子・小鹿野

東部地区

杉戸農業・春日部工業・三郷工業技術・八潮南・誠和福祉

西部地区

川越工業・新座総合技術・所沢商業・狭山経済・常盤・川越総合・狭山緑陽

南部地区

いずみ・鳩ヶ谷・川口工業・浦和工業・越谷総合技術・岩槻商業・浦和商業
大宮商業・上尾・戸田翔陽

2 事業概要

(3) 生徒実行委員会 代表生徒19名により、生徒自身が考え、企画や広報活動を展開

企画・立案 (5月~7月)



生徒実行委員会



スローガン、ポスターの決定
イベントの企画立案、協議、
広報活動の方法を検討

PR活動 (8月~10月)

令和7年10月4日(土)
イオン熊谷店 (1階展示場・3階展示場)

令和7年10月25日(土)
イオンレイクタウン (木の広場)

令和7年11月1日(土)
丸広百貨店川越店 (6階まひろび・7階エンタール)

令和7年11月15日(土)
イオンモール浦和東園店 (1階セントラルコート)

第35回 埼玉県産業教育フェア
彩 輪を架け繋ぎ 未来を育む
彩の国 専門高校生によるフェスティバル
農業・工業・商業・家庭・看護・福祉 全会場 入場無料

ポスター制作

Instagramの運用



埼玉フェアでのPR活動



デジタルサイネージCM撮影



ポスター掲示

当日 (10月・11月の4会場)

【当日の運営】
専門高校クイズ
ファッションショー放映
スタンプラリー

案内
アンケート
盛り上げイベント



盛り上げイベントの実施
コバトン・さいたまっち誘導



専門高校の学びを体験
専門高校クイズ実施



来場者のご案内



スタンプラリーの運営

2 事業概要

(4) 開催内容

① 体験型イベント 専門高校生が日頃の学習成果を体験イベントを通じて紹介 23校39ブース



北部 鴻巣女子高校

ハロウィンのオーナメントをつくろう

服飾に使う小物で松ぼっくりを装飾し、ハロウィンのオーナメントを製作



東部 八潮南高校

メッセージカード・名刺作成

文書処理ソフトを活用し、テンプレートを基にメッセージカードや名刺を作成



西部 川越総合高校

ハーブ葉っぱのスタンプ

室内園芸の学習で行っている授業を体験。ハーブに絵具を塗り、スタンプのように布地に押しつけて絵を製作



南部 浦和工業高校

3Dメタルパズル!～恐竜を組み立てよう!～

授業で使っているレーザー加工機を活用
金属製のピースを組み立て、恐竜を完成させる体験製作

2 事業概要

(4) 開催内容

② 学習成果物の販売 生徒が育てた農作物や企業と連携して開発した商品を販売 9校13ブース

北部



熊谷農業高校 くまのうアイス



皆野高校 しかコロぱん

東部



杉戸農業高校 各種野菜 (サトイモ・カブなど)



南部



岩槻商業高校 ひなどら



アイデア弁当

アイデア弁当の販売

令和6年度アイデア弁当コンテスト教育長賞受賞作品を新座総合技術高校の生徒がレシピを考え、企業と連携し、商品化して南部会場等にて販売



教育長賞受賞作品 拍手カツ彩弁当

2 事業概要

(4) 開催内容

③ 各種コンテスト（県立高校や大学等を会場に開催）



アイデアロボットコンテスト

工業高校生が自作したロボットの性能やアイデアを競うコンテスト

参加者：7校、生徒85名



リテールマーケティング・コンテスト

商業高校生が商品売買や販売促進に関する知識を競うコンテスト

参加者：4校、生徒12名

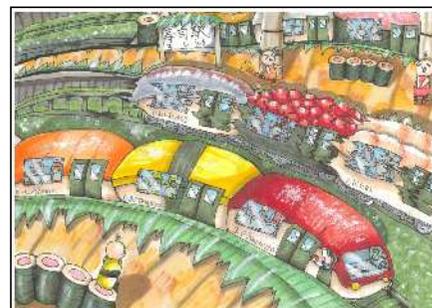


アイデア弁当コンテスト

小学生が家族や友だちと電車で食べたいお弁当を考え、イラストで表現するコンテスト

応募作品398作品

教育長賞受賞作品



夢の電車イラストコンテスト

小学生が夢の電車を考え、イラストで表現するコンテスト

応募作品427作品

教育長賞受賞作品

2 事業概要

(4) 開催内容

④ ホームページ・Instagram

● 生徒実践発表動画・作品展示の掲載

【農業部会】熊谷農業高校

【工業部会】新座総合技術高校

【商業部会】皆野高校

【家庭・看護・福祉部会】越谷総合技術高校
鴻巣女子高校



熊谷農業高校「明るい養豚業を目指して」



鴻巣女子高校「ファッションショー」

● 地域連携動画の紹介

令和6年度「未来の職業人材育成事業」
における各専門高校の取組動画を紹介



川越総合高校「タマシャモプロジェクト」

● Instagram

産業教育フェアの告知や
各校の取組を紹介



Instagram投稿画像

3 成果と課題

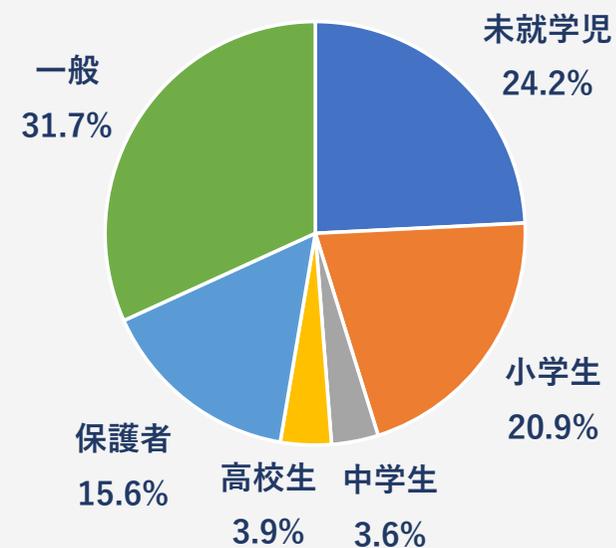
(1) 参加者数

体験・販売ブース参加者等の延べ人数					
	北部	東部	西部	南部	計
未就学児	94	121	77	414	706
小学生	107	109	101	293	610
中学生	34	23	25	23	105
高校生	29	13	39	33	114
保護者	85	176	63	130	454
一般	470	118	101	236	925
合計	819	560	406	1,129	2,914

※各体験型イベントの参加者数と各成果物の購入者数の延べ人数

スタンプラリー参加者数				
北部	東部	西部	南部	計
607	578	540	621	2,346

体験・販売ブース参加者等の構成比



(2) ホームページアクセス数等 (R7.11.15現在)

- ホームページ **48,075アクセス** (令和6年度 約71,000件)
- Instagram 379フォロワー (令和6年度 206フォロワー)
- 32,221アクセス

3 成果と課題

(3) 目的に対する成果と課題・今後の方向性

目的① 生徒の創造性や課題解決能力等の向上

成果	<p>生徒は、体験型イベントや学習成果物の販売を通して、プログラミング技術や食品加工技術など、日頃の授業の成果を来場者に伝えることができた。学びの成果を魅力的に伝えるためには、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が不可欠であることに気付くなど、実践的な学びを得ることができた。</p> <p>生徒実行委員 コメント</p> <ul style="list-style-type: none">○ 自分がこんなに人と話せるようになっていくことに驚いたし、話すことが楽しいと思いながら活動でき、成長できているなど思った。○ 特色の違う学校どうしで交流する機会が貴重だったので、いい経験になった。
課題	<p>今回、各校は学科ごとに出展した企画が多く、教科等を超えた取組や企業と協働した企画が少なかった。創造性や課題解決能力の育成のためには、専門教科の学びを基盤として、教科等横断的な学びや産業界との連携の更なる充実が必要である。</p>
今後の方向性	<p>複数学科での取組や企業との連携企画のモデルケースを学校に発信するなど、教科等横断的な連携や企業との連携を推進し、生徒の創造性や課題解決能力等の育成を図る。</p>

3 成果と課題

(3) 目的に対する成果と課題・今後の方向性

目的② 産業教育の魅力と役割を広く県民に紹介

成果	<p>商業施設の買物客に産業教育フェアに立ち寄っていただいたことで、専門高校に関心の少ない県民に対して、各学校や生徒の活動を伝えることができた。また、令和7年度から教科別の企画展示から学校別の企画展示に変更したことで、来場者に学校の特色をわかりやすくPRすることができた。</p> <p>来場者コメント</p> <ul style="list-style-type: none">○ 生徒がしっかりとしていて驚いた。目標のある高校生活を送っていると感じた。(一般)○ 特色も分かりやすくて、専門高校を知るきっかけになりました。(中学生)○ 受験の参考にもなりました。自分も主催側になりたいと思いました。(中学生)
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 商業施設の催事の一つに見えてしまい、産業教育フェア本来の特色が十分に発揮できなかった。・ 参加者の構成比は、未就学児・小学生が半数となり、中学生の参加は3%程度であった。・ アンケート回答数が少なかった。(55件・回収率2.3%)
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・ 日頃の学習内容や生徒の活動の様子をポスター掲示するなど、学びの成果の見せ方を工夫する。・ 市町村教育委員会が出席する会議でPRするなど、中学校への情報発信を強化する。・ 回答者に景品を付与するなど、アンケート回答率を高めるインセンティブを検討する。